

# 女性リーダー育成研修会



「人生を整える～ライフキャリアの断捨離～」

本市では、女性の政策・方針決定過程への参画を推進するため、女性リーダー育成研修会を毎年行っています。令和5年度は3月19日(火)に開催し、講師には市男女共同参画審議会会長の井上奈美子さん(福岡県立大学准教授)をお招きして「田川市女性人材バンク」に登録している人や一般希望者、市職員の計26人が参加しました。

今回の研修会は、参加者自身のこれまでのライフキャリアを振り返り、講師のアドバイスを得ながら、自分が望む働き方や生き方などについて考えることを目的に実施しました。参加者には、今までの人生を振り

返り、また、未来については今後の人生をどう生きたいか考えてから、キャリアデザインシートに落とし込んでもらいました。将来の人生設計をすでに考えている人もいれば、まだ考えきれない人もいましたが、グループ内でそれぞれの思いについて活発な意見交換ができ、話も弾んでいました。

人生100年時代。長寿化や昨今の目まぐるしい社会情勢の変化に応じた人生設計を考えることが求められています。今回の研修会が、自分らしく生き生きと暮らしていくために何が大切か考えるきっかけになればと思います。

## 【参加者の声】

- 今まで目の前の課題をこなすだけの人生だったが、今後はなりたい自分を意識しながら未来を考えていこうと思った。
- 残りの人生をどう生きていくか、ゆっくり考えてみようと思う。
- これからの人生の参考になった。今の自分の人生を受け入れながら、自分にできることから無理せず生きていこうと思った。



# 出前講座を実施しました



今年度は、福岡県立大学から社会調査実習の特別講師としての依頼があり、5月16日(木)に同大学人間社会学部で開催し、10人が参加しました。

男女共同参画の現状やLGBTについて説明しましたが、全員がわかりやすかったという感想でした。講演の後には学生との質疑応答の時間で、近隣自治体と共同で企画実施している研修会などはないかという質問がありました。今のところ予定はありませんが、今後はそういった新たな実施方法について考えていきたいと思いました。

## ＜男女共同参画出前講座 募集中＞

田川市男女共同参画センターでは、市民のみなさん楽しく男女共同参画について学んでいただくために、出前講座を実施しています。

地域やサークルの学習会や職場の研修等にお気軽にご利用ください。

テーマの例「男女共同参画ってなに?なぜ必要?」「イクメン、イクボスって?」「ワーク・ライフ・バランスについて知りたい!」「固定的性別役割分担意識って?」

- 対象 田川市に在住、通勤、通学されている概ね10人以上の団体
- 日時 平日の午前9時から午後9時までの間で2時間以内
- 場所 田川市内。会場は申し込まれた団体でご用意ください。
- 講師 田川市男女共同参画センター長
- 講師料 無料
- 申込方法 受講希望日の1か月前までにご連絡ください。

なお、人数、日時については、上記に当てはまらなくても対応できますのでご相談ください。別の会議等と組み合わせたミニ講座も開催できます。

※出前講座の実施は、地域貢献活動評価項目の対象です。



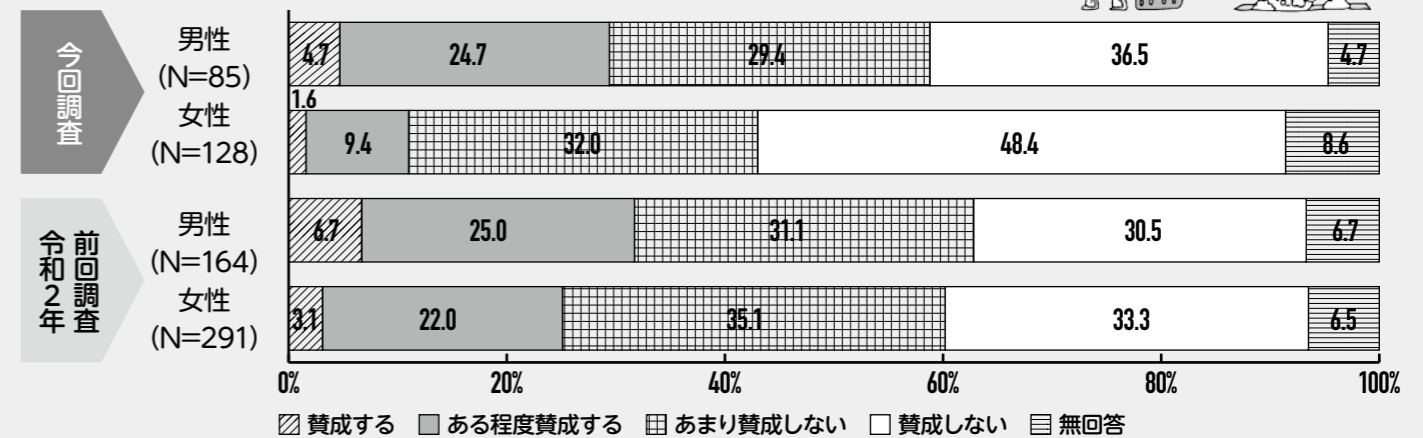
# 市男女共同参画社会づくりに向けた 市民意識調査(簡易版)結果報告



本市の男女共同参画社会づくりに向けて、市民の意識と実態を把握し、令和3年度に策定した「第2次田川市男女共同参画プラン後期計画」の進捗状況の確認や、今後の男女共同参画施策の推進に反映させるため、昨年10月に市民意識調査(簡易版)を実施しました。この調査は、無作為に抽出した市内在住の満18歳以上の男女1,000人を対象に実施し、220人の回答がありました。今回は結果の一部を紹介します。詳細は、男女共同参画センター「ゆめっせ」で閲覧されるか、ホームページをご覧ください。



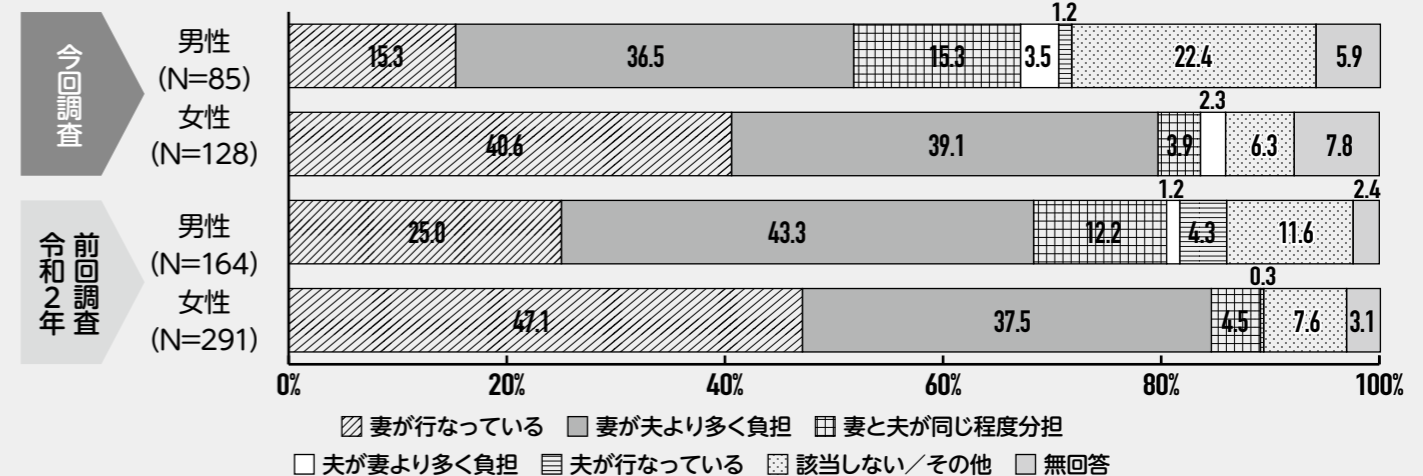
## 問 あなたは「男は仕事、女は家庭」というような固定的な性別役割分担についての考え方をどう思いますか。(1つに○)



### 【結果から見たこと】

性別役割分担に『反対』と回答した人は、男性65.9%、女性80.4%で前回調査よりも男性で4.3ポイント、女性で12ポイント増加しています。性別役割分担に反対する人は女性の方が男性より多くなっています。固定的性別役割分担意識を容認しない人は男女とも増えていると言えます。

## 問 あなたの家庭では、炊事、掃除、洗濯などの家事を、主にどなたがしていますか(していましたか)。配偶者(パートナー)がいない場合は、一般的にどう思われるかお答えください。(1つに○)



### 【結果から見たこと】

『妻中心』と回答した男性の割合は51.8%、女性の割合は79.7%で前回調査よりも『妻中心』の割合は、男性で4.9ポイント、女性で16.5ポイント減っています。また、男性では「妻と夫が同じ程度分担」で3.1ポイント、「夫が妻より多く負担」で2.3ポイント増えており、女性では「夫が妻より多く負担」の割合が2ポイント増えています。

このことから、家庭内での役割分担が妻に偏っている実態は変わりませんが、少しずつではありますが、家事に携わっている男性が増えてきていると言えます。